

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもくらぶ キジマール		公表日		R7年4月21日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	5	活動によって狭いと感じる際には体育館や広場などを利用している。また、子供たちのクールダウンができるようにパーティションなどを使って場所作りを行っている。	広いスペースへ移転(引っ越し)するなど検討していきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	活動に応じてゆとりある職員配置をしたり、適切に職員配置をするように意識している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	1	5	障がいの特性に応じて、環境上の配慮をしている。	現在、身体障がい児がいいため、バリアフリーはないが、今後、利用があれば、状況に応じて環境を整えたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4	2	毎日、職員にて清掃を行っている。また、月に1回は子供たちと「ひかひかデイ」と称し、清掃活動を行っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	1	5	パーティションで区切るなど、クールダウンが必要な際は、状況に応じて対応している。	個室があった方がよい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	職員間で意見が出しやすい環境づくりをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	改善点を話し合っている。	改善できるところは、職員間で話し合い、業務改善につなげていきたい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		風通しの良い雰囲気づくり意識している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5	1	専門的支援や個別支援計画書の書き方等の研修を事業所内で行った。	少しでも不安に思うことや新しい分野の支援面で職員研修を行い、職員の質の向上に努めていきたい。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムはホームページにて公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		こどもや保護者からの意見、意向を聞いたうえで計画作成を行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		職員間で話し合い、作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		日頃から計画に沿った支援が意識できるように記録シートに放課後等デイサービス計画から課題を抜粋している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	2	4	アセスメントシートについては、今年度、内容の見直しを行い、5領域に対応した課題をしっかりと導き出せる物となるようにした。		

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	1		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		月に1回、チームで活動プログラム会議を実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		活動が曜日で固定化しないよう工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	こどもの状況に応じて、支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		当日のリーダーを中心に支援内容や役割分担・配置等を全職員にて確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		当日は送迎が早めに終了していたら支援の振り返りを行っているが時間がない場合は次の日の朝に振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個別支援計画書での課題を意識し、毎日、記録を徹底している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		全職員にて定期的にモニタリングを行いサービス計画書の見直しをしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	3	3		ガイドラインに示されている基本活動を指針として、活動プログラムを作成しているが、地域支援、地域連携については、具体的な活動に繋げる取り組みまで至っていない。今後、検討していく。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		こどもの意志を尊重し、自主性を育てられるような支援を積極的に行っている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者と場合によって、児童指導員も参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	1	ご家族を通じて、連携している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		家族を通して、学校の情報を共有することが多いが、必要時は学校と情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1	こども達が小学校途中からの利用の為、保護者や相談員から今までの育ちの様子を聞き取り支援の部分で相互理解に繋げている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		6	地域小学校を利用している子が多いため、生活の中で交流している子が多い。	交流が少ない子もいるため、今後、いろんな活動の中で児童館や学童クラブ等との交流の機会を作っていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃から送迎時やLINE、電話等でお互い情報共有、報告している。		

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6			
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			契約時に行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	1		保護者の意向やニーズだけではなく、子どもの気持ちや意見も尊重している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			計画書の説明・同意は必ず得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			相談があった場合、面談・助言を行っている。	今後も、相談しやすい環境を整えていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3	3		毎年、2月頃に保護者会を開催している。	今後、保護者会の開催を増やし、保護者の意見を聞き、きょうだい向けのイベントや父母会の活動支援なども検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			苦情があった場合、職員間で共有し、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	2		SNS（LINE）で保護者とのやり取りをこまめに行っている。	HPなども活用していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			職員一人ひとり十分留意している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			送迎時に保護者へ情報伝達を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	5		ハロウィンで地域のお店に声掛けをして子供たちにお菓子を配り、地域で仮装パレードを行った。	今後、地域住民と関われるよう、地域行事等への参加していきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1	5		職員間では、周知できている。	家族には周知で出来ていないため、今後、周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			非常災害の発生に備え、避難訓練を行っている。	BPCに関しては、研修など理解を深めたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			てんかんの利用者様が2名。家族より発作時の対応を事前に聞き取りしている。てんかん発作のマニュアル作成を分かりやすい場所に掲示し、対応できるようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			食物アレルギーの利用者なし。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			職員間で共有、再発防止を図っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			虐待委員を決めて定期的に研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6			拘束に該当する利用者様がない。		